



# 管理者向け M365 セットアップガイド

Microsoft 365 管理センター



## 【 Microsoft 365 管理者センター 】

### < 概要 >

Microsoft 365 テナントが作成されたのち、ユーザーが利用開始するまでの基本マニュアルとなります。

### < 目次 >

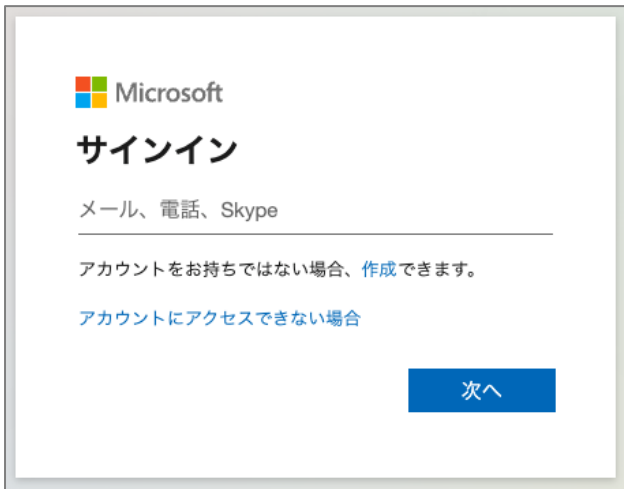
- (1) Microsoft 365 管理センターへのサインインの確認
- (2) セキュリティポリシー設定
- (3) カスタムドメイン設定(\*1)
- (4) ユーザー追加 (ライセンス割り当て)
- (5) ユーザー端末のアプリのインストールおよびアカウントでのサインイン(\*2)

\*1 カスタムドメインを利用しない場合は設定不要です。

\*2 別紙：「ユーザーガイド\_Microsoft 365 アプリインストール手順」をご確認ください。

## 【 Microsoft 365 管理センター にサインイン 】

1. Microsoft 365 開通通知書 に記載があるアカウント情報（ID/パスワード）を利用し Microsoft 365 管理センター（<https://admin.microsoft.com/>）にサインインする。



2. サインインできたら以下の画面になります。このページが管理者が利用するページになります。



## 【 セキュリティポリシー設定 】

Microsoft 365 のデフォルトのセキュリティポリシーは  
多要素認証が必須な「セキュリティの規定値群」が有効化されています。

お客様の環境に合わせてセキュリティポリシーを設定します。

< 選択 >

### ① 今までのレガシ認証と呼ばれる ID/PW のみのアクセスを有効化する

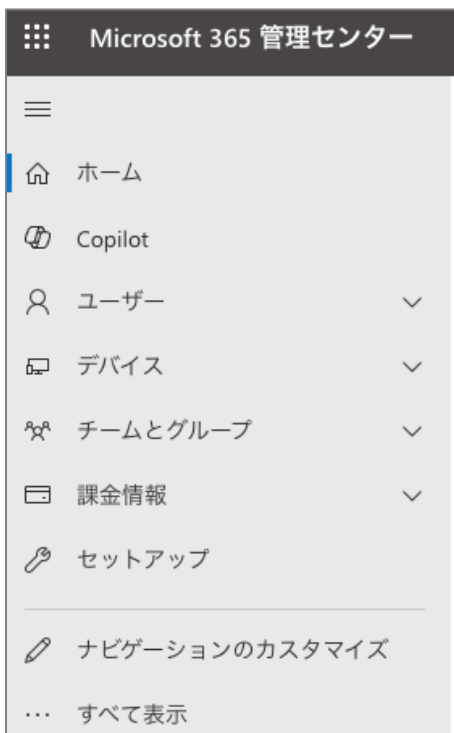
- └ 社内にて多要素認証が困難な場合や認証チャレンジがあることで支障がある場合はこちら  
※ただしセキュリティリスクは上がります、別途設定変更が必要です。

### ② 多要素認証が必須な「セキュリティの規定値群」を有効のまま利用する

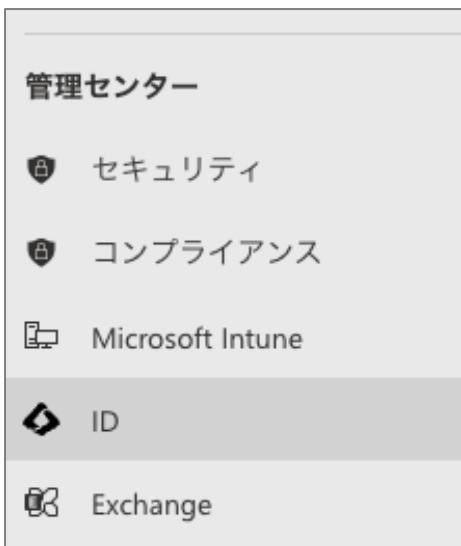
- └ 多要素認証必須になり、セキュリティは高められますが  
サインイン時には、スマートフォンアプリ（Microsoft Authenticator）や  
スマートフォン SMS を利用した確認コードが必要になります。  
※こちらはデフォルトで設定されています

< ①のレガシ認証を利用する場合の手順 >

1. 管理センターの左メニューにある「…すべて表示」をクリックします。



2. 表示が増えたメニューにある「ID」をクリックします。



3. Microsoft Entra 管理センターが開きます。

左メニューの「保護」から「認証方法」>「設定」>「システムが優先する多要素認証」にある  
[状態] の「Microsoft マネージド」から「無効」に変更し「保存」します

Microsoft Entra 管理センター

ホーム > テルウェル西日本株式会社 > 認証方法

### 認証方法 | 設定

テルウェル西日本株式会社 - Microsoft Entra ID セキュリティ

検索 フィードバックがある場合

管理

- ポリシー
- パスワード保護
- 登録キャンペーン
- 認証強度
- 設定**

監視

- アクティビティ
- ユーザー登録の詳細
- 登録とリセットのイベント
- 一括操作の結果

#### 疑わしいアクティビティのレポート

ユーザーが自分で開始したのではない認証要求を受信した場合に、疑わしいアクティビティを報告すると、そのユーザーのリスクが高に設定されます。  
[詳細情報](#)

状態 \* Microsoft マネージド

ターゲット \*  すべてのユーザー  グループの選択

レポート コード \* 0

#### システムが優先する多要素認証

この設定は、最も安全な多要素認証方法をユーザーに提示するかどうかを指定  
注: 機能の状態が Microsoft マネージドに設定されている場合は、適切なタイミ

状態 ⓘ \* Microsoft マネージド

含める  除外する

ターゲット \* **無効**

4. 続いて、「概要」をクリックし「プロパティ」をから「セキュリティの規定値群の管理」をクリック

The screenshot shows the Azure portal interface. On the left is a navigation pane with various categories like 'お気に入り' (Favorites), 'ID', 'ユーザー' (Users), 'グループ' (Groups), 'デバイス' (Devices), 'アプリケーション' (Applications), '保護' (Protection), 'Identity Governance', and 'External Identities'. The '概要' (Overview) item is highlighted with a red box. A red arrow points from this box to the 'プロパティ' (Properties) tab in the top navigation bar. Another red arrow points from the 'プロパティ' tab to the 'セキュリティの規定値群の管理' (Manage security defaults) link in the main content area. The main content area shows various settings for the selected resource, including '国または地域' (Country or region), 'データの場所' (Data location), '通知言語' (Notification language), 'テナント ID' (Tenant ID), '技術部連絡先' (Technical contact), 'グローバル プライバシー連絡先' (Global privacy contact), 'プライバシーに関する声明の URL' (URL of the privacy statement), 'Azure リソースのアクセス管理' (Azure resource access management), and 'セキュリティの既定値群' (Security defaults). A warning icon is visible next to the 'セキュリティの既定値群' section, indicating that the organization's security defaults are not set to 'Off'.

5. 右側に表示される設定画面にある[セキュリティの規定値群]を「無効」にします。

The screenshot shows the 'セキュリティの既定値群' (Security defaults) settings page. The page title is 'セキュリティの既定値群' and there is a close button (X) in the top right corner. Below the title, there is a section labeled 'セキュリティの既定値群' with a dropdown menu. The dropdown menu is open, showing two options: '有効' (On) and '無効' (Off). The '無効' option is highlighted with a red box. The '有効' option is currently selected.

6. 「無効」を選択した場合には、無効にする理由を求められます。

基本的には、何を選択しても変わりはありません。

例：

「自分の組織でアプリまたはデバイスを使用できない」を選択し

「条件付きアクセスポリシーを有効にして、セキュリティの規定値群を置き換えます」

のチェックを外し「保存」します。

無効にする理由 \*

このフィードバックは Microsoft の製品とサービスの改善に使用されます。[プライバシーに関する声明の表示](#)

- 組織では、条件付きアクセスの使用を計画しています
- 多要素認証のサインアップ要求が多くなり過ぎる
- 自分の組織でアプリまたはデバイスを使用できない

**i** 条件付きアクセスを使用してアプリケーションを許可するように条件とコントロールを変更します

- 条件付きアクセス ポリシーを有効にして、セキュリティの既定値群を置き換えます

## 【 カスタムドメイン設定 】 ※企業独自のドメインを利用する場合のみ

### < 概要 >

Microsoft 365 は ●●●.onmicrosoft.com という初期ドメインが設定されます。

そのドメイン会社独自の ●●●.▲▲ などの保有している独自のドメインに変更する場合の手順です。

初期ドメインのまま利用される場合は設定不要です。

### < 注意事項 >

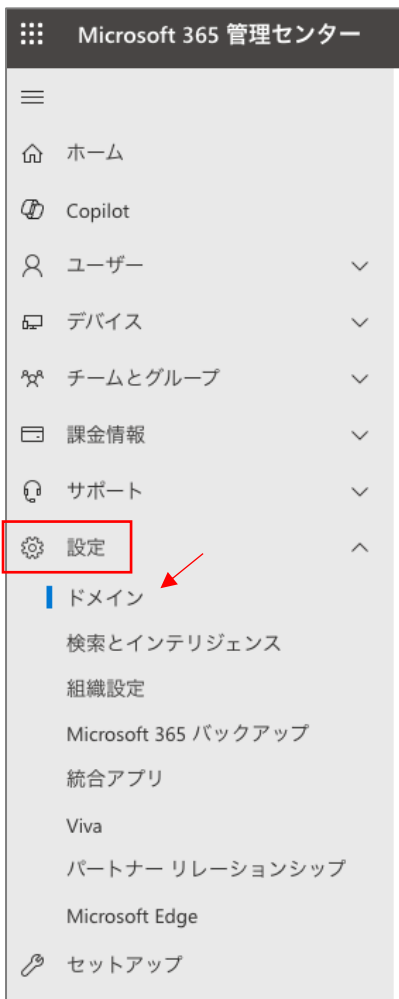
ドメイン設定には DNS レコードの編集が必要なためドメイン取得先の情報が必須です。

DNS レコードの編集はユーザー側でできる場合と、申請書形式で依頼するケースなどがあり事前に確認しておく必要があります。

またレコード編集については、多くあるドメイン管理会社によって異なるためドメイン側（DNS レコード）設定については記載されておりません。

### < ドメインの追加 >

1. 管理センターメニューにある「設定」から「ドメイン」をクリックします。



2. ドメインのページが表示されたら「ドメインの追加」をクリックします。



3. 現在、取得しているドメインを入力し進めます。

## ドメインの追加

contoso.com のようなドメインを既に所有している場合は、ここでアカウントに追加できます。

ドメイン名

4. ドメインを所有していることを確認します。

ドメイン会社によって設定できるレコードは変わりますが、概ね TXT レコードが対応しているはずですので「●ドメインの DNS レコードに TXT レコードを追加する」にチェックを入れ「続行」します。

**ドメインの DNS レコードに TXT レコードを追加する**  
レジストラまたは DNS ホスティング プロバイダーで新しい DNS レコードを作成できる場合に推奨されます。 [DNS の詳細情報](#)

**TXT レコードを追加できない場合は、ドメインの DNS レコードに MX レコードを追加します**  
TXT レコードがドメイン ホストまたはレジストラでサポートされていない場合にのみ推奨されます。

**ドメインの Web サイトにテキスト ファイルを追加する**  
すでにこのドメインを使用して Web サイトを設定している場合におすすめです。例: [www.iam2.net](#)

5. 続行すると以下の情報が表示されます。

こちらの情報を元にドメイン会社側のコントロールパネルなどから TXT レコードの設定します。

**TXT 名**  
📄 @ (またはプロバイダーがサポートしていない場合はスキップ)

**TXT 値**  
📄 MS=ms [REDACTED]

**TTL**  
📄 3600 (またはプロバイダーの既定値)

6. DNS レコードを追加して自分のドメインを接続する。

レコードの追加が終わったら「続行」をクリックします。

[https://learn.microsoft.com/ja-jp/microsoft-365/admin/get-help-with-domains/create-dns-records-at-any-dns-hosting-provider?view=o365-worldwide#BKMK\\_verify](https://learn.microsoft.com/ja-jp/microsoft-365/admin/get-help-with-domains/create-dns-records-at-any-dns-hosting-provider?view=o365-worldwide#BKMK_verify) (MS 公式ページ)

戻る

続行

※DNS レコードを追記してから、数分待たないと反映されません。

しばらく経って「続行」を押しても問題が生じる場合は、DNS 設定が正しく設定されているか確認してください。

7. 問題なく追加できた場合、追加の DNS レコード設定画面になります。



8. 今回は、カスタムドメインのみの設定のため

Exchange と Exchange Online Protection のチェックを外し「続行」で進めます。

Microsoft 365 を介してメールのルーティングを開始するには、**Exchange と Exchange Online Protection** を選択します。次に、ドメイン ホストにサインインし、こちらに表示されているレコードと一致する新しい DNS レコードを追加します。以下の値をコピーしてドメイン ホストの新しいレコードに貼り付けるか、参照として使用する DNS レコード情報をダウンロードまたは印刷します。完了したら、**[続行]** を選択します。

メールをセットアップしない場合は、選択を解除し、そのための DNS レコードを追加せずに続行します。

↓ CSV ファイルをダウンロード   ↓ ゾーン ファイルをダウンロード   印刷

Exchange と Exchange Online Protection

9. ドメインの一覧から閲覧と管理ができるようになったらドメイン認証は完了です。

すべて設定されて、ドメインの一覧から閲覧と管理ができるようになりました。  
アクティブユーザー に移動し、このドメインに新しいユーザーを追加することができます。

次のステップ

[アクティブ ユーザーに移動する](#)

## 【 ユーザーの追加とライセンスの割り当て 】

1. 管理センターにある「ユーザー」から「アクティブなユーザー」に移動し「ユーザーの追加」をクリックします。



2. ユーザー追加の画面が表示されたらユーザーの情報を登録します。  
必須項目は「表示名」と「ユーザー名」「パスワード」です。

例：

表示名：山田 太郎

ユーザー名：yamada ※ドメインはカスタムドメインを設定したら設定したドメインになっているか確認

パスワード：Pass1234

パスワードを管理者側が設定する場合は

- パスワードを自動作成する
  - 初回サインイン時にこのユーザーにパスワードの変更を要求する
- のチェックを外しておきます。

3. 入力したら「次へ」進みます。

The screenshot shows the 'ユーザーを追加' (Add User) form. On the left is a progress indicator with four steps: '基本' (Basic), '製品ライセンス' (Product License), 'オプションの設定' (Option Settings), and '完了' (Completed). The '基本' step is selected. The main form area is titled '基本設定' (Basic Settings) and contains the following fields and options:

- 姓 (Last Name) and 名 (First Name) input fields.
- 表示名\* (Display Name\*) input field.
- ユーザー名\* (Username\*) and ドメイン (Domain) dropdown menu.
- パスワードを自動作成する (Automatically create password).
- パスワード\* (Password\*) input field with a strength indicator icon.
- 初回サインイン時にこのユーザーにパスワードの変更を要求する (Require password change on first sign-in).

Additional text in the form includes: '最初に、ユーザーとして追加する人に関する基本的な情報をいくつか入力します。' (Initially, enter some basic information about the person you are adding as a user.) and 'パスワードは 8 ~ 256 文字で、大文字、小文字、数字、記号のうち少なくとも 3 つを組み合わせて使用する必要があります。' (The password must be 8 to 256 characters long and contain at least 3 of the following: uppercase letters, lowercase letters, numbers, and symbols.)

4. 作成するユーザーに対してライセンスを割り当てます。

割り当てる製品ライセンス名にチェックを入れ「次へ」進みます。

例：

Microsoft 365 Business Standard

10/10 個のライセンスが利用可能

と表示されている場合は、10 個ライセンスを所有していて 10 個の空きがある状態です。

**製品ライセンスの割り当て**

このユーザーに適用するライセンスを割り当てます。

場所の選択 \*

日本

ライセンス (1)\*

ユーザーに製品ライセンスを割り当てる

**Microsoft 365 Business Standard**  
利用できるライセンスがありません。追加のライセンスを購入する場合は、パートナーにお問い合わせください。

**Microsoft Power Automate Free**  
9978/10000 個のライセンスが利用可能

5. 次へ進むとオプションの設定が表示されますが、そのまま「次へ」進みます。

**オプションの設定**

このユーザーに割り当てる役割を選択して、追加のプロファイル情報を入力できます。

役割 (ユーザー: 管理アクセス許可なし) ▾

プロファイル情報 ▾

6. 内容を確認し「追加の完了」をクリックすればユーザーがライセンスを割り当てられた状態で追加されます。

## 確認と完了

### 割り当て済みの設定

このユーザーの追加を完了する前に、ユーザーのすべての情報と設定を確認してください。

7. 複数のユーザーがいる場合は、続けてユーザーを作成していきます。

ユーザーの追加が全て完了したら

次はユーザー側の PC にてアプリのダウンロードやサインインを実施していきます。（\*別紙）